

日刊旅行通信

発行所 航空新聞社：日刊旅行通信編集部
〒107-0052 東京都港区赤坂4-8-6 赤坂余湖ビル3階
TEL(03)3796-6646 FAX(03)3796-6645
http://wingnews.net mailto:mail@wingnews.net
購読料 半年33,600円 年間63,000円(消費税含む)

【トップニュース】

★KTO、「聖地巡礼」を韓国観光の新素材に 九州地区で先行、2010年までに3万人規模へ

【ソウル発=川嶋光智】韓国観光公社(KTO)は、韓国観光の新素材として「韓の国・三十三観音聖地巡り」を打ち出す。韓国内にある33カ所の寺院を選定し、巡礼観光として日本人向けに提案していく。まずは九州地区で企画提案を開始、各旅行会社には今年6月をメドに商品化を呼びかけ、6月下旬までにはプロジェクトを正式にスタートさせる。東京、大阪、名古屋地区でも提案活動を行う方針で、夏頃には各地で説明会および研修旅行等を実施する計画。韓国国内でも受け入れ態勢の整備を急ピッチで進めていく。

去る4月24日から九州内の旅行会社向けに実施した視察旅行で発表した。KTOでは同企画で初年度5000名、次年度1万名の需要予測を立てている。今後、市場への定着を3年計画で進め、2010年度には3万名規模まで拡大させたい考え。

企画の実施にあたり、韓国仏教文化事業団が全面的に協力し、各寺院の態勢整備に取り組む。KTOは、韓国政府の文化観光部より当初予算として1億ウォン(約1000万円)を確保、国家プロジェクトとして活動を行う。

また、日本では国土交通省、文部科学省、日本旅行業界(JATA)などの旅行関連団体に後援を呼びかけていく方針で、日本の四国八十八カ所巡礼や西国三十三観音巡りなどの、お遍路参りとリンクさせたプロモーションを展開したい考え。

すでに韓国側では受入窓口として『三十三観音聖地推進委員会』を設置、事務局として機能させる。窓口を一本化させることで、送り手側の業務簡素化を図っていく。今後、九州地区での商品展開および市場反応を見て、改善点の洗い出しを進める。

同企画の発起人であり、プロジェクトリーダーを務めるKTO福岡支社の寺崎嘉幸氏は、「韓国観光の本質は地方にあり、地方の寺院を基軸にすることによって、食文化や伝統文化を取り入れた商品化を呼びかけたい」とし、付加価値を高めることで価格指向からの脱却を図りたい考え。

また、「宗教観光を通じて日韓両国の相互理解を深め、双方向での交流拡大へ発展させたい」と述べ、企画成功への意気込みを示した。

現地側の態勢整備も急ピッチ 持続可能な体験型旅行として提案

「韓の国・三十三観音聖地巡り」は日本独自の企画として展開していく。KTOでは3泊4日～4泊5日のモデルコースを4コース策定、巡拝観光とすることで複数回参加できるようにし、持続可能な観光素材として定着を図る。また、コース中の1泊には『テンプルステイ』(寺院での宿泊)を盛り込み、体験型旅行としても訴求できるようにした。

各寺院には、三十三観音聖地であることを示す立て札を掲げるほか、『ご朱印帳』を製作し、巡礼することの魅力を高めて

いく。また、三十三カ所を巡り満願成就した参加者にはKTOから記念品を贈呈する。

すでに現地側では33カ所の寺院を選定済みで、今後、KTOから札所認定証を発行し、各寺院の参画意欲も高めていく。さらに、各寺院の由来や伝統文化を解説できるよう『専任先達』(せんになせんだつ)制度を設け、事務局は講習・研修を行っていく。同制度の合格者には専任先達認定証を発行し、事務局から各旅行会社へ派遣する制度を整える。

テンプルステイに関しては、現在のところ一定の設備は整うものの、日本人向けには不十分な点もあることから、ニーズをくみ取りながら各施設に改善を促していく。

同事務局によると、2007年の日本人テンプルステイ参加者は年間で約800人。今回のように、1泊の体験宿泊など参加しやすい環境を作ることで、テンプルステイの認知度拡大と定着を図る。

日本人のターゲット層としては、団塊世代を中心とした熟年・シニア層のほか、宗教団体や日本でのお遍路経験者を見込む。また、30歳前後の若い女性層の可能性も探っていく。

寺崎プロジェクトリーダーは、「韓国には巡礼文化がないことから、まだ受け入れ態勢で不十分な点も多い。旅程管理の面から巡礼ルートなどは検討を重ねる必要もある」としており、企画の本格的なスタートに向けて、旅行会社からの意見を広く募る考えだ。(研修旅行の詳細は週刊ウイングトラベルに掲載)



(写真左) 4月25日にソウルのKTO本社で行われた企画説明会
(写真右) 視察旅行ではテンプルステイを体験、参加者は僧侶の言葉へ熱心に耳を傾けた

★羽田-南苑線、北京五輪に間に合わず 鈴木航空局長、羽田-北京首都の臨時便検討へ

鈴木久泰航空局長は8日の会見で、北京五輪開催に向けて日中間で調整中だった羽田-北京南苑空港へのチャーター便については、北京五輪に間に合わないことが確定的となった。このほど訪日した胡錦濤国家主席と福田首相との合意事項に盛り込まれることも期待されていたが、合意に至らず、同線の五輪時期開設は事実上見送られることになった。

しかしながら、開設を断念するわけではなく、引き続き開設に向けて検討を進めていくという。結局、南苑空港が軍の空港ということもあって、中国側で調整が難航していることが、五輪開催に合わせて実現するという目標を達成することができなくなった要因のようだ。

からだで、こころで、もっと感じるハワイ。

So Much More Hawaii

ハワイセミナー2008

札幌 5月19日(月) 仙台 5月20日(火)
大阪 5月21日(水) 東京 5月22日(木)